

「西海神村についての雑学」

船橋地名研究会 川瀬 建雄

<序>

西海神村は「小菅県」に属していた。

明治2年の6月に現在の船橋市域は、西海神村が小菅県に入ったほかは全部が葛飾県に入った（郷土資料館発行の「新版・船橋のあゆみ」）。

<1>海神地名について

①海神地名の由来

日本武尊が東征のおり、この地に上陸し、海上を見ると「海上」に漂う船中に光り輝く「神鏡」を発見してここ（入日神社）に祀ったので「海神」というようになった、等々。

①房総半島の二つの海上郡

かみつうなかみ
上 海 上 郡（市原市辺り）、下 海 上 郡（銚子市・旭市辺り）

③海神村と西海神村はいつ、なぜ分かれたか

昔は一つの村であった。

元禄の頃（1700年頃）二つの村に分かれた。

西海神村は塩業で村の経済が成り立ち、海神村は漁獵で成り立つようになった。

<2>小菅県について

小菅県（こすげけん）は、明治2年（1869）に武藏国・下総国内の旧幕府領・旗本領の管轄のために設置された県。範囲は、現在の東京都足立区・葛飾区・江戸川区および荒川・豊島・北・板橋区のごく一部、埼玉県草加市の大部分、千葉県東葛地域。明治4年（1871）11月14日に廃止された。

①明治2年（1869）1月13日太政官布達で小菅県、葛飾県が設立される。西海神村は小菅県に、ほかは全部が葛飾県に。

②明治2年（1869）6月27日版籍奉還が実施される。

③明治4年（1871）7月の廃藩置県が断行される。

④同年11月14日 県の統合⇒小菅県、葛飾県が廃止され、この地域は印旛県、東京府、埼玉県に。

⑤明治6年6月15日に木更津、印旛県が統合、千葉県が出来る。

⑥明治8年5月7日、新治県が廃され、千葉県と茨城県に分割、同時に利根川の北にあった千葉県区域が茨城県に移り、現在の県の形が固まった。

<3>船橋の塩業の歴史

- ①東京湾北部での塩業は、室町時代末には始まっていた。
- ②東京湾北部の塩田の村々は、「行徳領」として管理されていた。
- ③②江戸幕府は戦略上この塩業を保護した。
- ④元禄の頃（1638～1704）になると、下り塩に押され衰退。
- ⑤享保の頃（1716～1736）、幕府は戦略上保護。
- ⑥天明の頃（1781～1789）、江戸の町の発展、醤油醸造の増加から反映
西海神村の塩田も再興される
- ⑦明治に入ると船橋村に塩田が延びる。国内塩の生産量が伸びる。
- ⑧安価・良質な外国塩対応として明治38年（1905）6月、塩の専売制度を実施。（1929）
⑨大正6年（1917）の大津波（東京湾台風）の被害、昭和4年～5年（1929～30）の第二次塩業整備で撤退が進む。
- ⑩戦後の昭和29年（1954）のキティ台風で行徳塩田は終わる。

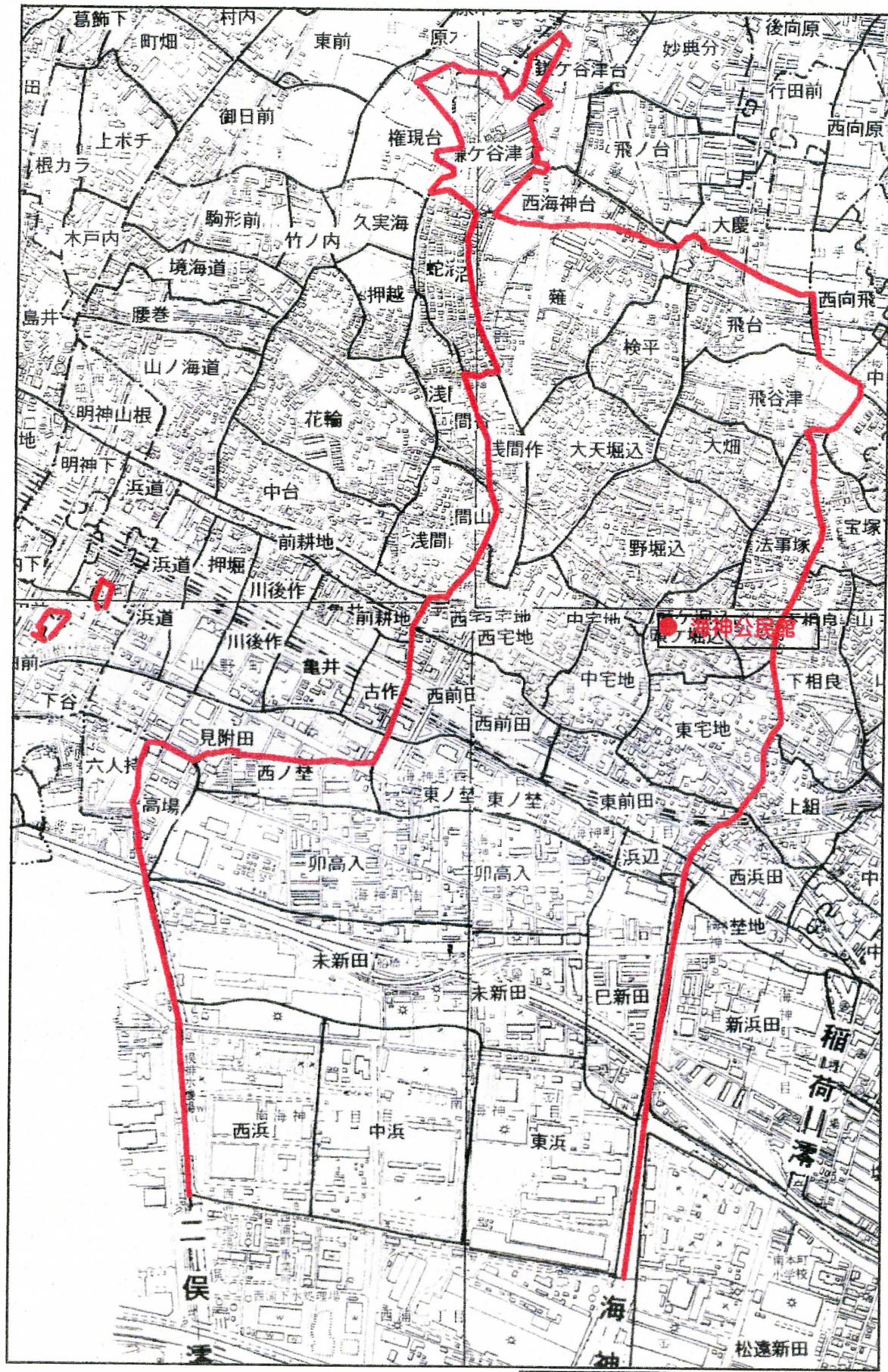
<4>海神支線

昭和4年12月に総武鉄道（11月22日 - 北総鉄道が総武鉄道に改称）が、
総武鉄道船橋駅から京成海神駅まで敷設した鉄道支線、昭和9年に廃線になる。

<5>葛飾郡について

東は船橋市・習志野市境、西は隅田川、北は古河市の広大な郡であった。
現在は、北葛飾郡松伏町・杉戸町のみに葛飾郡名が残る。。

西海神村と小字



滝口昭二著 「船橋小字地図」より